

# 千葉県 NEWS

## CHIBA CANCER CENTER NEWS

# がんセンターニュース



第40号

平成30年11月1日発行  
発行/千葉県がんセンター

## 基本理念

私たちは、心と体にやさしく、希望の持てるがん医療を提供します。

### 巻頭言



## 「備え」

看護局長 **おでまりこ**  
**尾出真理子**

では日ごろからの備えはいかがでしょうか。

仁戸名地区3病院（千葉県がんセンター、独立行政法人地域医療機能推進機構千葉病院、独立行政法人国立病院機構千葉東病院）では、大規模災害等が発生した場合（仁戸名地区3病院が所在する地域において災害救助法が適応になった場合）の相互支援について検討を重ねております。しかし、災害拠点病院の機能を持たない当センターでは、入院患者用の食事や薬剤、診療材料等の備蓄はある程度はありますが、一般の方の受け入れまでの備えや対応を行う職員用のものは備えていないのが現状です。実際に大規模災害が発生した場合に、落ち着いて対応するためのイメージトレーニングも重要ですし、その後すみやかに復旧・再開できるように事業継続計画（BCP）を策定していくことも必要になってきます。がんセンターでは、年2回実施している防災訓練をより実践に即した訓練内容に変更するとともにBCPの検討も始めました。今後も地域にとってより信頼される病院をめざして取り組んで参ります。

さて、話は変わりますが、がんセンターでは、都道

府県がん診療連携拠点病院として県下全域のがんに纏わる教育研修を行っています。また、医師、看護師、薬剤師、栄養士等の学生実習や研修を多数受け入れており、看護学校等の実習生は9校から、年間2100名以上に及びます。その中で、今回は看護からのホッとするエピソードを紹介したいと思います。

緩和ケア病棟で入院されていた独居のご高齢の方が亡くなりました。その患者さんを受け持たせていただいた看護学生が実習を終了するにあたって、患者さんに手紙を書いたそうです。患者さんはその手紙を大切に持っていらして、「学生さんのお陰で、これで私は一人で逝くのではないのでさびしくないわ」と言っておられました。亡くなられたあとの身支度を整えていた病棟看護師はその言葉を思い出し、着物の中にそっとその手紙を入れてお見送りをしました。

私は看護局長として、一人ひとりの気持ちを引き継ぐリレーができる看護師が、がんセンターの看護師であったことを誇りに思います。そして、看護学生がこの気持ちを持ち続け、患者さんの気持ちに寄り添える看護師となってくれることを心待ちにしています。

人の育成も将来への備えです。

がんセンターでは、これからも誠実で思いやりのある医療者を育成していきたいと思っております。

## 臨床の現場から

千葉県がんセンターは、がん治療と緩和ケアが包括的に提供される施設である「がん治療と緩和ケアが統合されたESMO指定センター」として、日本で初めて\*認定されました。

近

年、がんの治療中からさまざまなつらさを和らげる緩和ケアを並行して行うと生存期間が延長することが知られるようになり、がん治療と緩和ケアの併診のあり方が注目されるようになりました。国のがん対策基本計画においても「診断時からの緩和ケア」をキーワードとして早期からの緩和ケアへの取り組みが推奨されています。

この流れは世界的な潮流であり、米国臨床腫瘍学会(ASCO)と並ぶ世界的な学会として知られる欧州臨床腫瘍学会(ESMO: European Society for Medical Oncology)では2003年よりがん治療と緩和ケアが包括的に提供される施設をESMO指定センター(The ESMO Designated Centres of Integrated Oncology and Palliative Care)として認定することで、がん治

療と緩和ケアの統合を進める作業を行っており、昨年までに欧州、米国をはじめ全世界で185施設が認定されています。

千葉県がんセンターでは、以前よりがん患者さんやその家族にとって、緩和ケアががん治療と同様に重要であると考え、早期から緩和ケアの提供ならびにその質的な向上に努めてまいりました。今回、認定を受けた事で、私たちの提供している緩和ケアが、日本でトップレベルであることの証明になったと考えていますが、これに満足することなく、より質の高い緩和ケアを「いつでも、どこでも」提供できることを目指して努力していきます。

\*国立がん研究センター 東病院 など3施設が同時認定



ESMO

Designated Centers  
of Integrated  
Oncology and  
Palliative Care

## 千葉がん看護研修会実施報告

当院看護局では、平成28年より地域の医療従事者に向けた「千葉がん看護学習会」を実施しています。今年度は都道府県がん診療連携拠点病院として、7月23日に地域の訪問看護師や病院、クリニックの方を対象に開催し82名の参加がありました。

「療養場所の選択における意思決定支援」をテーマに、「訪問看護ステーションかがやき」の所長である尾崎直子氏を招聘し、「意思決定支援 その人らしく生き抜くために看護師ができること」の基調講演後、がん専門・認定看護師による講義があり、意思決定支援に関する意見交換会が行われました。ここでは、「患者・家族の希望は常に揺れ動くため、その都度確認する」や「意思決定支援はそれぞれが悩みながら行っている。在宅や病院と療養の場が異なっても、苦労しているところは同じである事が良く分かった」など活発な意見交換が行われ、盛況に終わることができました。また、当院の看護師にとっては、退院後の患者さんの様子や地域での関わりについて知る機会となり、とても貴重な場となりました。

今後も「切れ目のないがん看護」を目指し、学習会を企画していきたいと思っております。

副看護局長 平井 恵子

### 第3回 千葉がん看護学習会

療養場所の選択における  
意思決定支援！！

訪問看護師  
の皆様

当院連携施設の  
看護師の皆様

県内医療機関の  
看護師の皆様

日時：平成30年7月23日(月)  
18:30~20:00

会場：千葉県がんセンター 中会議室

定員：先着40名

参加費：無料

内容：1. 講義

「がん治療の現状と治療選択における  
意思決定支援」  
「病院における療養場所選択の  
意思決定支援」  
「在宅における意思決定支援」

2. 全体で討論会  
がん治療における意思決定支援で、  
困ったことを話し合います

講師：訪問看護ステーション かがやき 尾崎直子様  
当院の専門・認定看護師



お問い合わせ  
千葉県がんセンター 看護局

# 地域医療連携室だより

## 長期療養しながら働きたいという方へ ～ハローワーク千葉による就職支援のご案内～

心と体総合支援センター 看護師長 横土由美子

**が**ん治療を受ける患者さんは、治療を受ける期間休職したり、定期的に休みを取得したり、場合によっては退職を余儀なくされるなど治療の期間や内容によって職場から一定期間離れる場合があります。一方、昨今の医学の進歩により、仕事を続けながらがん治療を受ける時代になってきました。実際に休職したり退職した患者さんは「通院治療を受けながら仕事に復帰したいが不安」、「自分の体力に合った仕事を見つけたい」など、それぞれの立場や体調、治療の見通しなどから職場復帰や就職に対して少なからず不安を持っています。これまでは、患者さん自身で会社との交渉の後に理解を得て職場復帰したり、自身の努力による就職活動で就職先を見つけました。しかし、職場復帰や就職先は、場合によっては患者さんの体調や希望に沿わない場合もあります。そこで、今回千葉県がんセンター・心と体総合支援センターとハローワーク千葉が協働し、がん患者さんに対する就労支援を開始することになりました。

具体的な就労支援方法は、がん相談支援センター内に毎月決められた曜日と時間に就労相談室を設置しました。就労相談室には、ハローワーク千葉のキャリア・コンサルティングの資格や人事労務管理の経験がある専門的就

労支援担当者を「就職支援ナビゲーター」として配置します。就労相談は予約制で一人約45分です。就職支援ナビゲーターが直近の求人情報のデータを持参し、患者さんの希望に合わせた職場を探せる体制を整えます。また、仕事復帰の不安解消のための相談に応じたり、就職活動の応募書類作成や面接の受け方などについてアドバイスをするなど、就職先を探すだけでなく、希望する職場に就職できるようなノウハウをアドバイスします。多くのがんと治療を受けながら職場復帰を目指したり、就職先を探している患者さんに活用していただきたいと考えております。お近くの患者さんの中で職場復帰や就職への不安や悩みを持っている方がいらっしゃれば、がん相談支援センターにお気軽にお問い合わせください。

## 新規治験のご紹介

治験臨床研究センター診療部長 石井 浩

免疫療法の新規治験をふたつご紹介します。トリプルネガティブ乳癌のアテゾリツマブ（免疫チェックポイント阻害薬）と、標準治療不応膀胱癌の樹状細胞療法です。前者は、ホルモン療法が効かない難しい病状です。後者は、有効な治療がない厳しい病状です。これらの難治がんに治験で免疫療法の効果を問います。担当医に「難しい」「厳しい」と言われたら、千葉県がんセンターにセカンドオピニオンを求めてみませんか。貴方にぴったりの治験があるかもしれません。

### 治験アップデート

治験臨床研究センターでは募集中の治験等の情報を提供しています。概要は以下のとおりですが、詳しくは当センターのホームページをご覧ください。

当センターでは以下の治験を実施しています

**ホームページアドレス**

<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/riyo/kanja/chiken/jissijoukyou.html>



**現在募集中の治験情報** H30年9月30日現在

①乳がん	7件	④肺がん	1件	⑦食道がん	3件	⑩頭頸部がん	1件
②胃がん	7件	⑤膀胱がん	2件	⑧膀胱がん	1件	⑪悪性リンパ腫	3件
③大腸がん	1件	⑥前立腺がん	2件	⑨胆道がん	1件	⑫その他のがん	3件



# 看護の現場から

## 外来診断部門の看護師の役割

外来診断部門 三平 裕美

外

来看護師といえば医師の診察の介助や、医師と患者さんの間でサポートをしている看護師が思い浮かぶと思います。外来診断部門の看護師？何をしている人達だろうと思う人も多いと思います。外来診断部門には、12人のスタッフが在籍しており、内9人が内視鏡技師資格を有しています。白衣ではなく、青いユニフォームを着たスタッフです。内視鏡、気管支鏡、画像診断部門に於ける処置、造影CT、核医学のPET検査など様々な所で見かける事があるかと思いますが、その中の主な業務をご紹介します。内視鏡に於いては、胃カメラ・大腸カメラ・ESD (Endoscopic Submucosal Dissection/内視鏡的粘膜剥離術)・EMR (Endoscopic Mucosal Resection/内視鏡的粘膜切除術)。画像診断部門に於いてはIVR (Interventional Radiology/放射線の手法を用いて行う治療・血管内治療)としてのTACE (Transcatheter Arterial Chemo Embolization/肝動脈化学塞栓療法)、CVC (Central Venous Catheter/中心静脈カテーテ

ル)挿入、気管支鏡検査等の介助を行っています。がんセンターで検査や処置を受ける患者さんは、“私はがんのかな”“今回の検査でがんが見つかったらどうしよう”“処置は痛いかな、苦しくないかな”“腰が痛くて処置の間、仰向けで寝てられないかも”等様々な不安を持っていらっしゃると思います。私達外来診断部門の看護師は、患者さんが少しでも安心して、苦痛が少なく検査や治療が受けられるようお手伝いしています。新しい治療方法・検査・器材が出てくる中、時代に遅れる事の無いよう、新たな知識を身に付け適切な看護が行えるよう日々努力しています。検査や処置の際気になる事、心配な事は、近くにいる診断部門スタッフにお気軽にお声掛けください。



平成30年8月10日金曜日午後6時より、第27回ふれあい広場夏祭りが開催されました。今年は例年にもまして猛暑だったため、外で開催できるか心配していましたが、当日は涼しい風の中で開催することができました。

病院長のあいさつで夏祭りがスタート。待ち切れずに若干フライングしてしまった患者さんやご家族もちらほらいらっしゃいました。

がんセンターの夏祭りは射的や輪投げ、ヨーヨーやラムネなど夏祭り定番の出店から枝豆やケアグッズといった少しめずらしい出店まであります。毎年、あめ細工には多くの患者さんが並び、大人気です。

そんな夏祭りの中で一番盛り上がるのが、スイカ割りです。目隠しをして棒を持ち、「右右!」「もう少し左!」など声があちらこちらで上がり、とても盛り上がりました。

ふれあい広場のイベントは、がんセンターの職員だけでなく、たくさんのボランティアの方々にご協力いただき、開催しています。忙しい中、協力いただいた職員や遠方から来てくださったボランティアの方に今年も無事に夏祭りが開催できたことを感謝いたします。ありがとうございました。そしてお疲れさまでした。



## ひらめき☆ときめきサイエンススクール2018

本年度も研究所では夏休み中の中高生を対象としたサマーサイエンススクール、ひらめき☆ときめきサイエンスを7月31日（火曜日）に行いました。今年のテーマは「がん」と遺伝子の不思議な関係～遺伝子解析から「がん治療薬」を創る～でした。これは日本学術振興会の後援を受けて行うもので、千葉県に限らず全国の中高生から参加者を募集し、定員24名に対し、3倍を超える中高生が全国から応募してくれました。当日は朝から30度を超える猛暑の中、参加者全員が定刻通りに集合しました。開校式、講義後、実験を開始しました。まず、自分自身の口腔粘膜の細胞からDNAを抽出し、PCR反応を用いてアルコール分解酵素の一部を増幅し遺伝子型を確認しました。続いて行ったアルコールパッチテストの結果と遺伝子型の結果を比較しました。実習の合間にはランチタイムやクッキータイムで職員や大学院生とも将来の進路や夢等について交流会を行いました。閉校式では、「また、是非、参加したい」、「さらに興味が湧いてきた」等の参加者からの感想がありました。



10マイクロリットル取れたかなあ

## 夢チャレンジ体験スクール2018

本年度も研究所では夏休み中の千葉県内の中高生を対象とした千葉県教育庁主催のサマーサイエンススクール、夢チャレンジ体験スクール～遺伝子が語る体質の不思議～を8月7日（火曜日）～8月8日（水曜日）に行いました。今年は定員24名のうち、2名欠席で22名が参加しました。当日は猛暑が心配されましたが、一



こうやって目盛りをあわせてね

転して台風の直撃を受けることとなり、3日間コースの予定を1日短縮して実施することとなりました。それでも参加者は自身の血液からDNAを抽出し、PCR反応を用いてアルコール分解酵素の一部を増幅する予定されていた実習を行いました。アルコールパッチテストや血液細胞の観察も行いました。時間は短縮されましたが、職員と最新の研究や進路等についてもお話ししました。参加者からは「わかりやすく解説してもらえた」等の感想がありました。最後にご協力いただいた各部署の方々、職員と生徒の交流会に残念ながら（台風で中止のため）ご参加いただけなかったの方々、この場を借りて御礼を申し上げます。今後とも何卒よろしく願いいたします。

千葉県がんセンター研究所 若林 雄一

## DMATロジスティックチーム派遣について

事務局医事経営課 小原 裕樹

9月6日に発生した北海道胆振東部地震に対応するため、厚生労働省よりDMATロジスティックチーム（以下参照）が派遣され、その第2次隊員として選出され9月10日～16日まで現地に派遣されました。派遣先は、最も被害が大きかった胆振東部地区の『厚真町』に設置された医療救護保健調整本部となり、同チーム調整員リーダーとして、被災地の医療体制・生活環境を平時と同様に移行するため、行政や各種医療チームとの調整業務を行いました。

<DMATロジスティックチーム>

DMATインストラクター登録者のみが受講できる専門の研修を受講した者で構成される調整業務に特化したチームであり、医師や看護師であっても診療業務を行うことはなく、本部運営や関係機関との調整業務を担う。



# 初診担当医表

予約受付時間 月曜日～金曜日(祝祭日、年末年始を除く) 9時～17時

2018年10月1日現在

診療科	月	火	水	木	金
肝胆脾外科	千葉 聡	高山 亘	高山 亘 石毛 文隆	柳 浩男	千葉 聡 有光 秀仁
食道・胃腸外科	池田 篤 外岡 亨	鍋谷 圭宏 早田 浩明 外岡 亨	滝口 伸浩 池田 篤	鍋谷 圭宏 滝口 伸浩 郡司 久	早田 浩明 星野 敢
消化器内科	傳田 忠道 鈴木 拓人 喜多絵美里 天沼 裕介	傳田 忠道 須藤研太郎 三梨 桂子 南金山理乃	山口 武人 傳田 忠道 中村 和貴 三梨 桂子	傳田 忠道 鈴木 拓人 辻本 彰子 三梨 桂子 石井 浩	中村 和貴 須藤研太郎 天沼 裕介 北川 善康
呼吸器外科	岩田 剛和		飯笹 俊彦 岩田 剛和 松井由紀子		岩田 剛和 松井由紀子
呼吸器内科	芦沼 宏典 水野 里子	新行内雅斗 吉田 泰司 芦沼 宏典		新行内雅斗 吉田 泰司 水野 里子	芦沼 宏典
乳腺外科	山本 尚人 味八木寿子	味八木寿子 (担当医)	中村 力也 吉住 有人	(担当医)	中村 力也 味八木寿子 吉住 有人
形成外科				徳元 秀樹 新井 美波	徳元 秀樹
婦人科	大崎 達也	田中 尚武 鈴鹿 清美 井尻 美輪 海老沢 桂子	大崎 達也	田中 尚武 鈴鹿 清美 井尻 美輪 海老沢 桂子	大崎 達也
泌尿器科	小丸 淳 ベニ 祥 裏 存	鎌迫 智彦	白川 昇英 宋本 尚俊	小林 将行 植村 俊彦	深沢 賢 白川 昇英
腫瘍血液内科	熊谷 匡也 佐藤 昌靖	辻村 秀樹 菅原 武明	熊谷 匡也 菅原 武明 佐藤 昌靖	熊谷 匡也	熊谷 匡也 辻村 秀樹
脳神経外科	井内 俊彦	(担当医)	井内 俊彦	(担当医)	堺田 司
頭頸科	(担当医)	佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興		佐々木慶太 佐々原 剛 大熊 雄介	
整形外科	石井 猛 米本 司 塚西 敏則	石井 猛 嶋田 博人		石井 猛	米本 司 嶋田 博人 塚西 敏則
緩和医療科	坂下 美彦	藤川 文子	坂下 美彦	藤川 文子	坂下 美彦
精神腫瘍科		樋田 紫子			
核医学診療部		小川 和行	久山 順平	久山 順平	小川 和行

## 診療予約のご案内 予約電話 043-264-5431(代表番号) 地域医療連携室 予約担当

- \*当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。
- \*初めて受診なされる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。



**JR千葉駅から** 所要時間:約25分

千葉中央バス: 萱田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車

**JR鎌取駅から** 所要時間:約13分

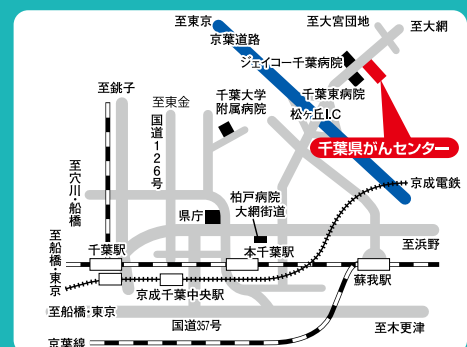
千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

**JR蘇我駅から** 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

**松ヶ丘ICから**

大網街道を大網へ向かって約2km右側



### 千葉県がんセンター

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2  
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680  
<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/>